

神苑の決意

平和と独立を求める民衆の「決意」を伝える
神道ジャーナリズム誌

令和三年 辛丑 正月

丑



神苑の決意 木川智

本号の内容

【新年のご挨拶】(木川智)：1 / 【連載】児玉誉士夫を君知るや
児玉誉士夫の天皇論を読み解く①(木川智)：2 / 花瑛塾令和二年十一月・十二月活動報告：4 / 【連載】記録沖繩戦⑩ 軍民・日米それぞれの視点から(沖繩戦史研究会「棒兵隊」)：7 / 【連載】葦津珍彦と神道ジャーナリズム 「時の流れ」を読み解く①(鎌倉佐助)：16 / 【連載】アジア放浪記―歴史を掘り起こし日本を見る④①(仲村之菊)：18 / 編集後記：20

1部 1000円

令和三年、新しい年を迎えました。今年も一年どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は何よりも新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有のコロナ禍の一年でした。あらためてコロナにより亡くなられた方々に哀悼の意を表すとともに、現在罹患され治療などを受けている方々にはお見舞い申し上げます。また医療従事者はじめ感染症と戦う全ての関係者に敬意と感謝を伝えたいと思います。

天皇陛下は毎年八月の全国戦没者追悼式においてお言葉を述べられますが、昨年の式典では「私たちは今、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、新たな苦難に直面していますが、私たち皆が手を共に携えて、この困難な状況を乗り越え、今後とも、人々の幸せと平和を希求し続けていくことを心から願います」との一節を含むお言葉を述べられています。異例と云ってよいお言葉ですが、私たちはこの

お言葉をしっかりと胸に刻み、けしてコロナを甘く考えず、感染拡大を防ぐ取り組みをし、このコロナ禍を乗り越えなければなりません。そのためにも個々人の主体的な注意・警戒はもちろん、政府や自治体のコロナ対策を注視し、批判し、また提言していく必要があります。

ただ感染拡大を防ぐ観点から、昨年の私たちの活動は大幅に制限され、これまで継続してきた活動がほとんどできない状況でした。やむをえないこととはいえ、その点での様々な心残りがあることも事実です。他方、コロナ禍において今できることは何かと考え、新しい取り組みを模索し、開始することもできました。非常時において平時を意識し、平時において非常時を生きる心づもりで、コロナ禍での活動を展開していきたいと思っています。

あらためて今年一年、ご指導ご鞭撻と叱咤激励、厳正批判を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。